

活力あるまち大津

歴史、自然と水 輝きのまち



国指定 西谷墳墓群

出雲弥生の森博物館



来原岩樋



水車 (来原岩樋)



岩樋守本田家紀功碑



来原岩樋公園から斐伊川を望む



にぎみたま
和魂神社 (水の守り神)



間府川流入口



来原水源地



神立橋



神立橋(昭和初期の木橋)



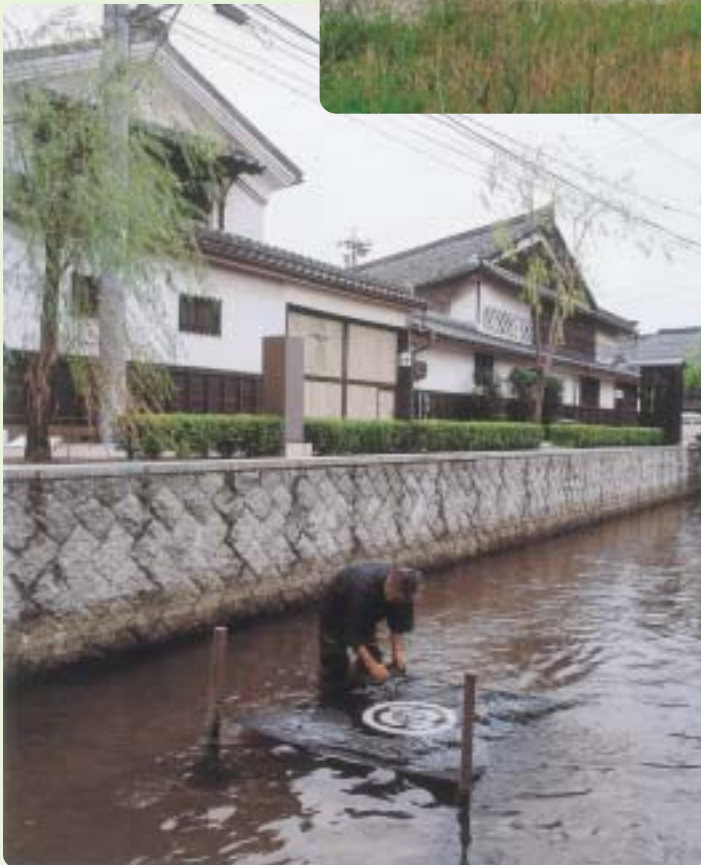
南神立橋



からさで大橋



J R山陰線 斐伊川鉄橋



高瀬川(長田紺屋)

大津3銘水



西光寺(雪の井)



涼池院(華の井)



円光寺(月の井)



平野勲記念館



萬祥山窯元



包蒙館跡



大津小学校全景

大津小学校（昭和2年建設中の木造校舎）



大津コミュニティセンター



まちづくり計画策定委員会

委員長 曾田 正一

私たちが住む大津は、生活環境に恵まれ、古来より栄え、先人たちが守り、代々伝えてきました。子どもからお年寄りまで、ともに支え合い、助け合い、大津に暮らす人々の人情の豊かさに成り立ってきました。先人は、斐伊川の豊かな水を活かし、来原岩樋を掘り、高瀬川を開削し、下流の農業振興に尽くしてきました。高瀬川のせせらぎは、大津の栄枯盛衰を今に伝えています。また、豊富な水は、製糸産業に貢献し、大津の発展に大きく寄与してきました。

戦後、高度経済成長により、次々と新しい動きがあり、自分たちが住むまちの良さを見過ぎて来たような気がします。その後バブルが崩壊し、経済成長が止まり、地域ごとに自然環境や伝統文化、住環境等のまちづくりを考えるようになりました。

大津では、平成12年(2000年)に「大津地区活性化ビジョン」を発刊しました。その後10年近くが経過し、時代に対応したまちづくり計画を策定しようという声があがり、自治協会から委嘱を受けて「大津まちづくり計画策定委員会」を設立しました。

大津地区においても少子高齢化の大きな波が押し寄せています。人口が減少し、空き家が増えてくると予想されます。高齢者世帯が増加し、今後、自治協会加入世帯の半数に及ぶという予測があります。また、出生率も低下傾向にあります。

こうした時代の流れの中で、委員会ではまちづくりのキーワードを集め、私たちを取り巻く諸課題を洗い出し、4分科会(住環境・教育文化スポーツ・産業振興・医療福祉その他)を設置し、何度も何度も会議を重ね、計画策定を行いました。

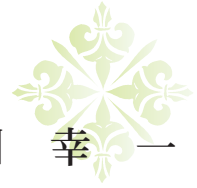
私たちが住む大津は、西谷墳墓群に象徴されますように、丘があり、水があり、自然豊かで、生活することに適した魅力ある地域です。自然と調和しながら、未来を切り開いていかなければなりません。

現在の私たちを取り巻く環境は誠に厳しいものがありますが、ご近所力を活かし、リーダーを育成し、ともに支え合い助け合いながら、一人ひとりが責任を担い、住み良い大津の未来を画き、「頑張れ大津・未来は私たちがつくる。」と、活力ある大津地区のまちづくり計画を策定いたしました。今後この計画書が活かされますことを切に望みます。

ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。



大津自治協会



会長 切川 幸一

平成12年(2000)に「大津地区活性化ビジョン」が策定されてから、早いもので11年が経過しました。その間、国道9号出雲バイパス及び山陰高速道路が開通、西谷墳墓群が整備され、出雲弥生の森博物館が開館しました。また、斐伊川放水路の開削が進められ、分流施設などが出来つつあります。その一方で、田園風景がほとんど見られなくなるなどハード面では随分整備されてきました。

また、この間大津地区におきましても少子高齢化が考えていた以上のスピードで進展し、子育て事業や高齢者に対する福祉関係施策等も、関係者の努力により様々な事業が展開されてきました。このような状況のなか、政治、経済等社会情勢が大きく変化しています。

大津地区においても現状を分析し、今後の進むべき方針を考える時期にありました。このときに大津地区をさらに良くしようと、「大津まちづくり計画策定委員会」が町民公募による23名(男性18名、女性5名)の方々に構成されました。委員の皆様は、大津地区を安全で安心な楽しい生活環境にする夢を持つ方ばかりであります。私も立場上、設立当初から数回傍聴させていただきました。委員の方々が大津地区の将来のまちづくりを真剣に討議されている様子に力強く思いました。

いよいよ計画書も最終段階を迎えられました。こうした大津地区のまちづくり、また、今年(2011)10月から斐川町との合併による新しいまちづくりなどを思えば、限りなくまちづくりの輪が広がってまいります。今まで以上に連携し、特色と活力あるまちづくりを進めるために頑張りましょう。